

■子ども虐待防止策の講演会 FAQ(よくある質問と回答)

Q:万が一、開催当日にキャンセルが増えて、参加予約の段階で見込んでいた入場料収入に足らず、今一生さんの講演代(10万円)が満額払えない場合は、どうすれば？

A:その時は、僕(今一生)が赤字をかぶります。

もともと、そうならないよう、会場を予約できた時点で早めに寄付をネット上から募り、寄付でも間に合わない時に備えて地元企業にスポンサーになってもらえるよう、早めにスポンサー候補リストを作り、アポをとって会いに行きましょう。

スポンサーが、いざというときの安心の保険になるので。

詳しくは、運営マニュアルや今一生のブログを読んだ上で、今一生にメールで相談してください。conisshow@gmail.com(今一生)

●運営マニュアル

<http://www.createmedia.co.jp/img/2018kouen-manual.pdf>

Q:昨年(2017年)ノーギャラだった講演代は、なぜ今年10万円になったの？

A:全国各地で講演する際の今一生がかぶる赤字を減らすためです。

昨年は、全国19か所へノーギャラで出向き、今一生の千葉から現地への往復交通費と宿泊費を当日の入場料だけで賄う仕組みでした。

新幹線を使わずに高速バスを利用したり、早割で格安航空チケットを入手したり、ホテルではなく3000円以下のゲストハウスに泊まるなど、なるだけ経費を最小化する工夫をし、1か所で往復交通費と宿泊費が5万円以下に収まるようにしたのです。

ある地方で会場が満席になっても、その収益の浮き分は10人以下しか入らなかった別の地方の赤字を補填するのに使い、19か所のトータルで収支をなんとかトントンにしました。

もともと、19本の講演原稿の執筆、プロジェクターで投影する画像の収集、各地の運営スタッフとの通話とメールによる打ち合わせ、現地メディアへのプレスリリースの配信、イベント告知ブログの執筆などに忙殺されると、本業である取材や書籍執筆の時間はその分だけ減り、稼げるはずの時間は無くなり、収入が減ります。

今一生はサラリーマンではなく、自営業者なので、稼ぐ時間を失うことはそのまま減収になるのです。収入が減れば、生活できなくなったり、地方へ行く交通費を担保できなくなるリスクを負います。

そこで、今年(2018年)からは1回10万円に設定しました。10万円のうち、5万円

は往復交通費や宿泊費、現地での飲食費などに充当させ、5 万円の純利益を担保したわけです。

しかし、この純利益も、往復交通費と宿泊費の合計が 10 万円以上もかかる場所へ行くとすると、実質的にはノーギャラ(減収)になります。交通アクセスが悪い地方からの講演依頼も拒否しない方針なので、そうした辺境の土地での講演も想定し、そうした土地での赤字補填のために少しでも利益を出せるよう、10 万円に設定したのです。

Q:なぜ 9 月末までに 20 か所での開催を希望するメールが届かないと、講演代が 20 万円に引き上がるの？

A:年内の開催を 10 月から進めると、運営スタッフに負荷がかかりすぎるからです。

主催者に名乗りを上げ、他の運営スタッフをネット上で募り、会場の候補にあたりをつけ、今一生と LINE グループ通話による初の打ち合わせをするまでに約 1 週間。

そこからイベント告知ブログを作ったり、会場を正式に予約したり、寄付を集めたり、参加予約を受け付ける広報活動をし、開催当日を迎えるまでに約 2 か月はかかります。10 月からそれらの活動を始めると、12 月の開催がギリギリですし、安く使える公共施設も予約が満杯のリスクが高まり、プロジェクターとスクリーンのある会場探しが大変になります。

無理に年内の開催を目指せば、スタッフの労力・時間に余裕がなくなって運営を楽しめなくなり、イベント開催の魅力も半減してしまうでしょう。それは、誰も望むものではありません。

そこで、9 月末の時点で年内開催が難しそうだと判断し、来年(2019 年)の開催を準備してほしいのです。

来年開催の講演代は、20 万円に設定しています。この額面だと、イベント開催の未経験者では賄うのが難しくなります。そのため、通学先の学校や通勤先の企業、自治体、地元の青年会議所、超党派で子ども虐待防止策を学びたい議員連盟などにメールで僕への講演依頼をお願いした方が、楽に地元開催が実現できます。

僕にとっても、往復交通費と宿泊代込みで 20 万円の講演代なら仕事にできるため、生活の心配をすることなく、安心して本業で稼ぐ時間の余裕を作れます。

なお、9 月 17 日時点で 5 か所での開催が決まっています(※終了したものを含む)。

<http://letters-to-parents.blogspot.com/2015/05/tour2018.html>

Q:なぜ今一生さんは、リスクを負ってまで虐待防止策の講演を続けてきたのですか？

A:従来の方法では、全国の児童相談所へ寄せられる虐待相談の件数が減らないからです。

減らないどころか、件数は増え続ける一方です。

1990年当時 1000 件台だった相談は、2015 年には 10 万件を突破。

虐待相談は、25 年間で約 100 倍に増え、今も増え続けているのです。



この 25 年間、児童福祉の専門家や研究者、虐待防止活動を自称する市民団体は、いったい何をしていたのでしょうか？

残念ながら、彼らが主張する対策では、子ども虐待は減らせませんでした。

僕は、彼らとは異なる手法の虐待防止策として、社会起業(ソーシャルビジネス)による解決事例や、親から虐待されてきた当事者のニーズに基づく解決の仕組みを語るすることができます。

それらはいずれ 1 冊の書籍にまとめる予定ですが、なるべく早く多くの人に地に足の着いた対策を伝えたいと考えました。人々が「その手があったか！」と驚き、他の人に伝播していくとき、親から虐待されている子どもや虐待死はどんどん減らせます。

僕には、親からの虐待によって精神病になり、30 歳になる前に自殺してしまった友人が 3 人もいます。若者の葬式には、もう足を運びたくありません。53 歳まで生き残ってきた身としては、体が動くうちに全国各地に飛び、最先端の防止策を伝えたいです。

Q:このイベントの広報は、どのように行うのでしょうか？

A:チラシ・web・プレスリリースの 3 本立てで行います。

まず、イベント告知ブログを作ります。

サンプル記事のワードファイルは、今一生へメールして求めてください。
参考までに、昨年告知ブログ記事のリンクを下にリンクしておきます。

<http://con-isshow.blogspot.com/2017/08/2017sapporo.html>

イベント告知ブログができれば、twitter、facebookなどで拡散します。

とくに twitter では、ハッシュタグをつけてブログへのリンクを紹介すると同時に、会場の写真や、ブログにある画像などを張り付けておくと、注目度が高まります。

地元在住のユーザを地名で検索し、片っ端からフォローしておくのもいいでしょう。

告知ブログの記事のリンクは、市内・県内の関連団体にメールで知らせましょう。

送り先の候補は、地元の市議や県議、子育て支援 NPO、児童虐待防止の市民活動団体、AC や依存症の自助グループ、子ども食堂、大学の児童福祉に関する研究室(教授)、子ども関連の学生サークル、自立援助ホーム、教職員組合など。

次に、告知ブログの内容をベースにチラシを作ります。

ラスクルのような安い印刷会社を利用し、最大 300 枚ほど準備します。デザインができない場合は、今一生が自分のブログで告知する記事にある PDF 簡易チラシをダウンロードして利用ください。参考までに昨年の PDF 簡易チラシのリンクをどうぞ。

<http://www.createmedia.co.jp/img/2017sapporo.pdf>

チラシのデザインデータは、このリンクのように告知ブログで誰でもダウンロードできるようにしておくと、そのリンクを友人に紹介しやすくなりますし、SNS での拡散にも活用できます。

スタッフ以外にデザインを発注する場合は、ギャラが払えないので、もしデザイナーにお願いする場合は、「チラシに design by ○○」とデザイナーの名前を入れ、ブログでもその人のホームページへリンクすることを対価にしてください。

広報チラシは、1 か所で 10 枚、最大 30 か所に設置します。

設置しておきたい候補先は、精神科デイケア、カウンセリングルーム、大学の心理学教室(教授室)、イベントをよく行っているライブハウスや書店、会場付近の飲食店、青年会議所、学生街のカフェ、ホテル、弁護士事務所(法テラス)など。

場所によっては、チラシの上部にパンチ穴を空けてひもを通し、画鋲などで吊るしておくことにもなるので、準備のため、設置場所の候補先リストを作ってみてください。

また、県や市の後援をとりつけると、地元の公共施設(図書館、公民館、NPO センター、高齢者福祉会館、学校、福祉作業所、社会福祉協議会、福祉センター、児童館など)にチラシを設置させてくれやすくなります。

最後に、地元の新聞やテレビ・ラジオなどのマスメディア向けには、今一生からプレスリリースをメールで配信します。

現地スタッフとしては、イベント告知ブログを開設し、開催情報を公開した後から、ダメ元で NHK や地元の放送局、コミュニティ FM 局、地元の新聞社に「子ども虐待防止策の講演会を市民として開催するので取材してほしい」と電話してみてください。

事前に記事で取り上げてくれたり、番組で紹介してくれることもあるので、そうした報道が早ければ早いほど、参加予約や寄付を集めやすくなります。

Q:開催の運営にかかる経費は、どうやって賄うの？

A:基本的に、「当日の入場料+寄付」で賄うことをお勧めしています。

たとえば、主催者+今一生+新たなスタッフ1名の3人で運営する場合、それぞれが5人の参加予約を集めることを目標にすると、参加者は15名。

そこで、チラシやweb、マスコミへの事前広報などを通じて参加予約を申し込む人数の目標を15人に設定すると、合計30名。

一人あたり平均15000円の入場料を払うとして、4万5000円。

この講演会の経費は、10万円(今一生の講演ギャラ+往復交通費+宿泊費など)+2万円(会場利用費+チラシ印刷費+打ち合わせ飲食費など)=12万円ですから、残り7万5000円をネット上からの寄付で補填することになります。

もっとも、寄付による資金調達を採用する場合、5万円を今一生へ先払いしてくれれば、講演代を9万円に値引きするので、残りは6万5000円。

運営スタッフが公開するイベント告知ブログで、「寄付募集」「スタッフ募集」「参加予約受付」をセットにして記事を書き、twitterやfacebook、LINEやmixiなどのSNSで拡散させると同時に、直接の友人・知り合いにはメールで記事リンクを伝えれば、寄付・スタッフ・参加予約は相乗効果で増えていきます。

それでも不安な場合に備えるには、地元の企業から3~6万円程度のスポンサーになってもらいましょう。その対価は、その企業の公式サイトへのバナーリンクでいいでしょう(※ネット上に永久掲示)。

イベント告知ブログ記事の文章について不安な場合は、今一生に文章サンプルをメールで求めてください(conisshow@gmail.com)。ワードファイルで送ります。

今一生自身もイベント告知ブログ記事を書き、参加予約を促進します。

なお、スタッフがたくさん集まった場合は、最大10人で打ち止めにしておきましょう。

Q:ネット上で寄付を集める際、自分の口座を公開する必要がありますか？

A:基本的には、あります。

ただし、最長で口座の公開から当日の前日までの数か月間だけ利用するので、既存の口座を使うのではなく、まだ開設していない銀行に口座を開設し、それを公開するのが無難でしょう。

当日までの間に現金を何度も引き出したり、イベント終了直後に口座を引き上げれば、ハッキングのリスクはほとんどありません。

また、当日の入場料が増えれば、その分だけ必要な寄付金が減らせるので、参加予約メールがより早くより多く届けば、口座番号を公開する期間も短縮できます。

もっとも、本名を公開せざるを得ないので、本名がバレるのが嫌な場合、運営スタッフの中から口座も本名も公開してよい人を探ることになります。どうしてもそういう人がいない場合、僕(今一生)のジャパンネット銀行の口座を代用することもできます。

この場合、どこの町での講演会を応援するのかがわかるように、あらかじめ振込人に寄付で応援したい開催地の名前をメールで知らせてもらうことにします。

また、ゆうちょ銀行では任意団体(※法人登録のない組織。運営グループもこれに相当)名義で口座を開設できますが、手続きがかなり面倒な上、局員に怪しまれるので、お勧めはしません。

Q:どうしても他のスタッフが得られなかった場合、個人で開催はできるでしょうか？

A:できます。

2017 年も、個人で主催者になる方がいました。

もっとも、「地元で開催したい！」とメールを僕にくれれば、3 万 8000 人のフォロワーがいる twitter で毎日何度もスタッフ募集をかけるので、数人程度のスタッフは遅かれ早かれ現れるでしょう。

個人主催の場合、問題はむしろ、どれだけ運営のために時間をさけるかが大事になってきます。サラリーマンなど時間の余裕がとりにくい立場の場合は、無理をしない方がいいでしょう。

僕は、運営スタッフにこの講演会の運営を楽しんで取り組んでほしいのです。

楽しみながら、講演会の実現という達成感を分かち合いたいのです。

なので、自分で主催するのは無理そうと思ったら、地名と「#親への手紙」のハッシュタグをつけ、「自分の地元の〇〇市で今一生さんの虐待防止策の講演会を開催してくれる方はいませんか？」と twitter で呼びかけ、「やりたい！」というレスがついたら、今一生のブログ記事のリンクを伝えてください。

<http://con-isshow.blogspot.com/2018/09/2018kouen-offer.html>

学生や不登校児、専業主婦やニートなど、時間に余裕のある方なら、意外とカンタンに運営できることを伝えてもらえれば、主催者になってくれるかもしれません。

少なくとも、「自分一人でがんばらなきゃ…」なんて思わないでください。

僕もいるし、スタッフも現れ、みんなで運営を楽しむことができるチャンスですから。

Q:2019年に地元開催を希望する場合、現時点で何をすればいいでしょうか？

A:以下の4つのどれかを試みてみましょう。

★イベント実績のある主催者を地元で探す

「児童虐待防止」「講演」「主催」の3つの言葉で Google 検索にかけると、主催者が検索結果に出てきます。

そうした主催団体があなたの地元の県にあるなら、「今一生さんを講演に招いてくれませんか？」と下記のリンクをつけて要望のメールを送ってみてください。

<https://news.careerconnection.jp/?p=54145>

★年間行事に組み込んでもらう

学校には学園祭や講演会などの年間行事にあらかじめ予算をとっています。

自治体(都道府県や市町村)の場合、子ども家庭支援課などが主催し、毎年 11 月の児童虐待防止月間に虐待防止のイベントで講演会を開催することがあります。

子育て支援や教育・福祉の公共関連でも虐待防止のイベントを開催していますから、そうした施設のホームページからメールを出すこともできます。

地元の青年社長が集まる青年会議所も同様に、外部講師を招いた研修会を実施しています。

そうした団体にメールで「虐待防止策に関する講演を開催される場合は、今一生さんをお招きください」と要望のメールを送ると、検討してくれる場合があります。

★地元の市民団体と一緒に助成金を申請する

2018年、福岡では地元の NPO 法人が自治体(都道府県・市町村)に助成金を申請し、僕の講演会を開催します。

市民活動(事業)にかかる経費を、自治体が補助するための制度は、それぞれの自治体のホームページ内を「助成金」で検索すると出てきます。

なので、地元の子育て・虐待防止・児童福祉・まちづくり関連の NPO 法人に「虐待防止策の講演会の開催を一緒にやりませんか？」とメールすれば、NPO が助成金を申請し、実現にこぎつけることも可能です。

助成金は、学生団体、法人の届けをまだ提出していない任意団体などにも提供されることがあります。これと同様に、大企業の CSR 部署を検索してみても、市民活動への助成金の情報は得られます。お早めに助成金情報の検索を！

★1本20万円+2万円(※会場レンタル費・チラシ印刷費など)の資金を調達する

もし、あなたが大企業の本社・支社に勤務しているなら、会社主催の社員向け勉強会があるかもしれません。

そうした行事に僕を呼んでください。

中小企業でも、経営者が子ども虐待に心を痛めている人物なら、会社が20数万円

を拠出して、地元市民も含めた勉強会を社内外で開催してもらおうよう、提言してみてください。

今一生は、どんな僻地でも飛んでいきます。

ほかに質問があれば、今一生までメールください(conisshow@gmail.com)。

●虐待防止策講演会 全国ツアー2018(全国各地の最新情報)

<http://letters-to-parents.blogspot.com/2015/05/tour2018.html>

●運営マニュアル

<http://www.createmedia.co.jp/img/2018kouen-manual.pdf>